

心をみつめる

第その二十二

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

時代に合わせたお寺の在り方

皆様、お寺に対するイメージは、どのようにお持ちでしょうか？

あるご法事の席のことです。お勤めが終わると、法話をするのですがその折に、ご法事に来られていた子どもさんや、十代から三十代ほどの若い世代の方々に対して、「お寺に対するイメージは、どのようにお持ちですか？」と、お尋ねしました。すると、「暗い」「敷居が高い」「怖い」「何か怖いものが出てきそう」など、お寺に対してマイナスなイメージを持たれたお答えが大半でした。

それでは何故、若い世代の方々はお寺に対してマイナスのイメージをお持ちなのか？そのような疑問が、私の脳裏を巡りました。

本来は、お寺も冠婚葬祭すべての役割を担っていたはずですが、また、「駆け込み寺」というように、地域に密着



した形でお寺が地域の拠り所ともなっていたはずですが、それが時代の流れとともに、お寺が「葬」の部分だけが残ってしまったということも否めないことです（勿論、葬儀も大切な行事であることに変わりありません）。

ある冬の日の夕方に、月命日のお詣りをしている時に、クリスマスの時期を控えていたことから、とある教会が煌びやかにイルミネーションを飾られていました。明るいものですから、私も思わずその煌びやかさに目を奪われました。そのような時、お寺に足りなかったのではないかと思うようになりました。

あるご門徒さんから、「お寺で使って下さい」と、イルミネーションの一式を頂いたことがきっかけでした。イ



浄土真宗 本願寺派 浄樂寺
麻生 暁文 住職

今年は節電要請があり、例年に比べると少し控えめになります。12月中旬～来年1月中旬まで点灯いたしますので是非ご覧になられてください。



浄樂寺
若松区赤島町 3-6
TEL 093-791-0245

ルミネーションを境内に飾ることができれば、きっとお寺も明るくなると思いますので、当時の総代さん方に相談したところ、「そんなクリスマスみたいなのことをするのはおかしい」と猛反対に遭いました。当時私の寺には法務員さんがおられ、その彼が「折角なので一度飾ってみて、それでも不評に終わればやめよう」と言われましたので、一度飾って見たところ、「お寺が明るくなった」と、何とご高齢の方々から賛同を頂きました。

あれから数十年、いまやイルミネーションの時期を迎えると、私のお寺にも若いご家族やカップル、ご高齢の方々まで気軽に足を踏み入れて下さるようになりました。

『仏説阿彌陀經』という經典の中に「浄土の世界には金・銀・瑠璃などの宝石で飾られた池や楼閣があり…」と描写されています。「浄土」は、私た



約 10 万個の LED ライトによるイルミネーション
点灯時間は午後 6 時から同 11 時まで

ちが命終えた後に生まれ行く世界です。イルミネーションの光を拝借して、当寺では浄土のイメージを再現しております。

是非、気軽に足を運ばれてください。お待ちいたしております。